都留市寺記

鹿留宮下

曹洞宗　龍石山長泉院　宝鏡寺末

本尊由緒

本尊は千手観世音菩薩木像坐体。像長21.2㎝。

往古茲に大いなる洞石あり。其の上やや平地にして小堂ありてこれに安置さる。元亀三年意雲薫心和尚遊化の際、里人同心して洞石を切り平げ小院を結構しこれを勧請す。（以上長泉院寺記による）

合祀仏像

脇侍　毘沙門天　不動明王木像立体　像長共に22.2㎝

達磨大師木像坐体　像長39㎝

大権修利菩薩木像坐体　像長39㎝

宗祖承陽大師木像坐体　像長22.2㎝

以上四体は宝延二年　当院四世洞竜岳仙の代に安置された。

興起縁由

当院は鹿留川の上流に沿い、字渡戸地内西南の山足に大いなる洞石があり、麗泉湧き出て糸の如く長流し、草木繁茂し洞石の周辺は雲霧が絶えず龍蛇が住むと伝えられていた。元亀三年意雲薫心和尚遊化の際洞石を切り平げて精舎を結構し、山号を龍石山と称し、また麗泉の長流するに奇瑞して寺号を長泉院と称し禅刹となり宝鏡寺に属し末寺となった。

注　以上の地（渡戸）は現在地より約三キロ離れた処にあったが、享保以前現在地に移転されたものである。

開山履歴

創立開山　意雲薫心和尚

文禄元年十一月二十一日示寂。俗姓宗義、宝鏡寺第七世晦翁宗朔和尚の法嗣にして元亀三年当山を創立し開山となる。

伝法始祖　東陽得春和尚

大永七年（一・五二七）四月五日示寂（位牌には天正四年正月五日示寂とある。）

俗姓不詳。宝鏡寺四世大蒲宗睦和尚の嗣注、同寺第五世。享保十二年四月十五日大嶺智鏡和尚が、得春を勧請し法地開山とし自らは第二世に列す。

結構規模

享保十一年より同十二年にわたり、当寺第二世大嶺智鏡和尚建立す。

本堂9×75K、庫裡11×6K、衆寮6×4K、以上三棟の建物は天保八年四月十九日、十世大潤俊獣の代焼失す。

慶応二年十月、十四世蘭庭秀光の代に至り、本堂3×3K、庫裡5×4Kのものを建立、更に明治三十六年より同三十八年にわたり、十六世祖岳泰禅の代、本堂（6×5K）を再建、昭和二十五年九月より同二十八年にわたって、十九世祖心義啓代に庫裡（8K05×6K）を改築す。

長泉院　本堂

付属建物

開山堂、昭和四十七年十二月、十九世祖心義啓代建立（35×3K）

歴代住職

創立開山　意雲薫心和尚　文禄元年十一月二十一日示寂
徹宗菊寒和尚　慶長十九年三月二十三日示寂
返山寂照和尚　寛永十四年九月三日示寂
出伝秀入和尚　寛文元年八月二十五日示寂
惱安了意和尚　寛文七年四月十三日示寂
根安守善和尚　寛文十二年七月八日示寂
班室牛虎和尚　宝永七年四月十三日示寂
超山永善和尚　享保六年十月四日示寂
寿山良保和尚　寛延二年四月十日示寂
伝法始祖　東陽得春和尚　大永七年四月五日示寂宝鏡寺第五世
二　世　大嶺智鏡　天明三年十月三日広教寺にて示寂　世寿九十一才　耕雲院第六世
三　世　月旨弘鑑　享保十四年三月九日示寂　初狩村小林氏
四　世　洞龍岳仙　天明五年十一月二十九日示寂　門原白須氏　宝鏡寺十六世　広徳院二世　耕雲院第七世

五　世　石品大龍　天明三年十一月二十四日示寂
六　世　天瑞大麟　安永七年十一月一日示寂
七　世　大道祖白　享保三年八月三日示寂　宝鏡寺十八世
八　世　虎班秀林　文政七年三月五日示寂
九　世　真光謙宗　天保十二年七月二十三日示寂　宝鏡寺二十二世
十　世　大潤俊獣　文化五年十一月十八日示寂　広徳院五世
十一世　禅契越定　天保三年四月十八日示寂　広徳院六世
十二世　泰洲秀岳　天保九年五月十八日示寂
十三世　寂室眠静　明治十二年五月十二日示寂
十四世　蘭庭秀光　明治十八年十一月五日示寂　宝鏡寺二十七世　永寿院十四世
十五世　愚道秀峰　不詳
十六世　中興祖岳泰禅　昭和五年三月二十一日寂　光照寺十一世　遠州光陽院伝注開山
十七世　道樹仏心　大正七年一月十八日示寂
十八世　泰心俊英　光照寺十二世現住
十九世　祖心義啓　当院現住

古器什器宝物

涅槃図一軸　彩色紙本165cm×125cm、
釈迦一代絵巻図一軸　彩色絹本160cm×103cm、
十三仏像掛軸　恵心僧都画
ガマ仙人一軸　蛇足軒　雄画　伊勢の人で通称左近と号した。天明元年（一七八一）歿。103×23cm。

石仏

地蔵菩薩坐像　台石高さ90cm、台座高さ（三重）85cm　像長65cm　面長20cm　膝張り55cm寛政十年戊午九月、九世真光謙宗代建立。

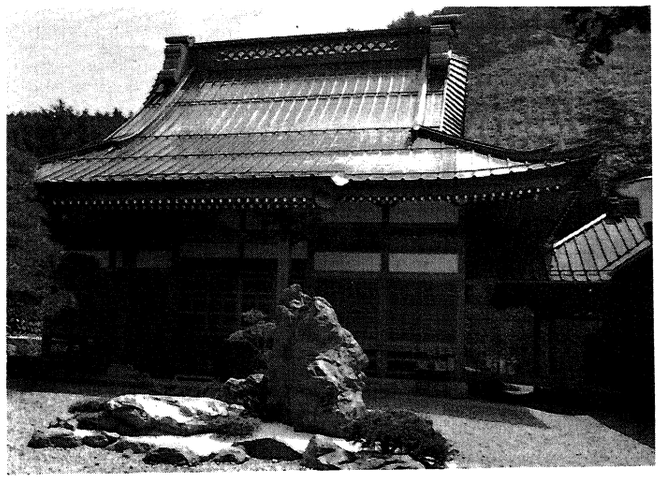
長泉院　本尊

鹿留古渡
曹洞宗　大医山光照寺　宝鏡寺末

本尊由緒

薬師如来　木像坐体　像丈23cm　膝張り19cm　面長7cm　面巾5cm
本尊は伝教大師の御作である。
脇侍　日光菩薩　月光菩薩共に木像立体　像長20cm　十二神将　像長15cm

当山草開伝法大僧正（正治元年巳未三月十八日寂）は、頼朝公ご祈願によりて、当村堂地と申す処に一宇を建立す。富士御狩のため、富士山の北丑寅にあたる故に武運長久を祈る為めである。伝法僧正を江州よりたのみ来り一宇を造立して、大医山光照寺と号し伝法僧正を開祖とす。大医山は本尊薬師仏の故に山号とす。即ち巻狩は建久四癸丑五月十五日当寺に御入山有。



光照寺　本堂

合祀仏

古渡古城山清浄院の三十三体観音像の一部。御正体山上人堂の阿弥陀如来を合祀す。阿弥陀如来（増上寺由縁のもの）は木像立体台座向背絵丈157㎝　像幅71㎝　如来像長76㎝　裾張り24㎝　面長9㎝　面幅9㎝。作者年代不詳。

興起縁由

一山和尚（明徳四癸酉三月二日寂）豆州絵馬の住人、文和元辛卯年当寺に住す。明徳元庚午七月の大雨（十五日より二十三日まで降り続く）のため二十二日夜寺流れて行方知れず。これによって明徳三壬申三月小幡に寺地をとり、三間に六間の小寺を作る。宜楞和尚（応永三十一年申辰九月三日寂）生国は尾州の人、諸国行御の時豆州最勝院に安居し三年後当寺に来り、応永二巳亥三月より住す。これより当山は禅曹洞宗となり豆州宮上村の最勝院末寺となる。

達道和尚（天文二十三年庚寅正月二十八日寂）は、恕達和尚の弟子にして当郡夏狩の生れである。永正元甲子の年国々大飢饉にて田地を失い、文亀三年癸亥当郡夏狩村宝鏡寺の末寺となる。天文二癸巳年十二月二十六日夜御本山炎焼古き書物等焼失す。天文九庚子四月洪水にて大飢饉、明年丑年八月十一日大風雨のため大出水にて地面大破、同年九月字小田の沢に寺を移す。

廻用宗須和尚（寛永十九壬午四月十一日寂）は源龍和尚の弟子にして、天正十九年辛卯当寺を小田より蟹沢に移し、本堂

庫裡を建造す。文禄元壬辰三月入仏供養、文禄三甲午の年に御本山九世体岩堯道和尚を当寺の開山として勧請す。逸山勇俊和尚（元禄十五壬午三月十八日寂）は、生国武州の人にして天台宗であるが、当寺に住して密教を行う。改宗して当寺に住す。のち羽州へ行く故に法退転す。

当山二世中興大梁臨舟和尚（寛延二巳巳五月二十八日寂）は、当寺の中興で、宝永元申十一月八日山梨郡万力筋落合村永昌院会下より入院。

開山履歴

開山体岩堯道和尚は、本寺宝鏡寺の第九世に列せられ、文禄三甲午の年廻用宗須和尚代勧請開山となる。（元亀三壬中十一月八日寂）

結構規模

〔庫裡〕6×13K、文化十年に出来る。昭和三年草葺屋根をトタン葺に替えた。

〔本堂〕9×5.5K、破損甚しく大正四年これをこわして本堂を庫裡に造りこんだ。のち当寺十三世現住　心俊英和尚代、本堂新築7.5×8K。昭和五十年五月二十五日落成。

〔付属建物〕離座敷6.5×4.5K。

歴代住職

開山体岩堯道―二世大梁臨舟―三世大通活道―四世卍応尺丈―五世誠巌丹教―六世祖律教山―七世雲外丹道―八世万外泰道―九世金峰泰然―十世痴外泰愚―十一世祖岳泰禅―十二世亀芳鶴州―十三世泰心俊英（現住）。

末寺

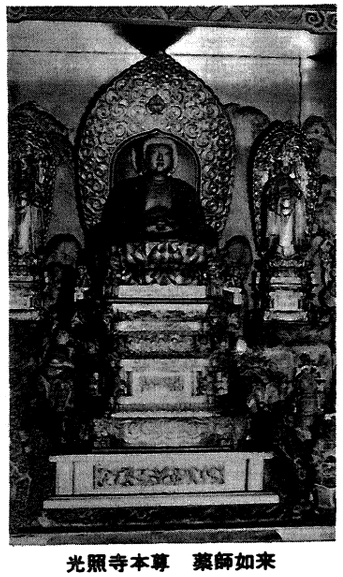
鹿留古渡に古城山清浄院あり。光照寺末、平僧寺にして、もと天台宗。夏狩大徳寺と共に谷村の泰安寺末院であった。のち泰安寺武州川越に移転せしため隣寺光照寺に属し禅刹となる。現在光照寺に統合され廃寺である。

古器什器宝物

仏心宗派東流一滴　一冊

過去帳　三冊

入山三代上人巨海上人の石塔があるといわれている。



光照寺本尊　薬師如来

夏狩（上）

曹洞宗　種月山耕雲院

宝鏡寺末

本尊由緒

六道能化地蔵願王菩薩、木像立体像長51㎝、肩幅13㎝、面長10㎝、行基菩薩の願作。脇侍は性善性悪二童子木像立体共に像長26㎝、

合祀

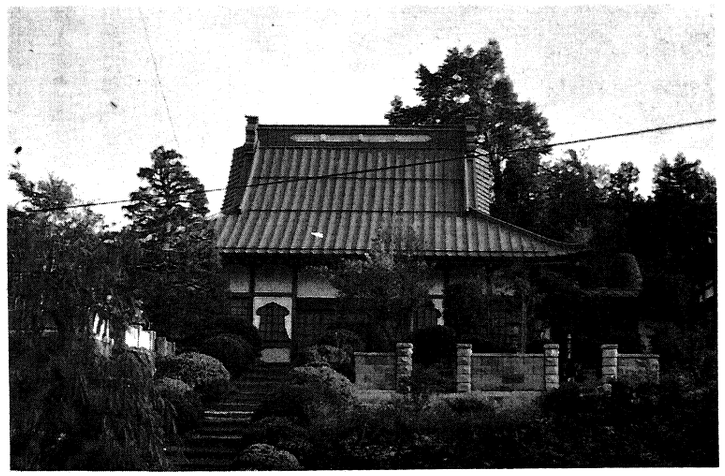
護伽藍神牌、大檀那霊牌、開山聖天義賢禅師（元文三年造立）菩提達磨大師（鎌倉時代作）、大権修利菩薩（鎌倉時代作）、何れも木像坐体。但し達磨、大権の造立年代鎌倉時代とあるのは伝唱であってその正否は不詳である。

興起縁由

当院は南朝の忠臣児島高徳の家臣某が、夏狩の西方湯之沢に一堂を建立、夏狩山高徳寺と称し真言宗であった。のち村中の古慈恵の地に移り三反八畝の境内を占めていた。しかし、その後数回に及ぶ火災のため寺運衰え伽藍は烏有に帰してしまった。

応永五年（一三九八年）、聖天義賢和尚が復興し曹洞宗に改宗し、寺号を種月山耕雲院と改めた。

寺号の生起は、宗祖道元禅師入宋帰朝の後、山城の国深草の里に一草庵を創立寓棲された折に申された偈の一節「西来祖道我伝東種月耕雲慕古風云云」が出拠である。享保八年（一七二三年）、当院五世融刹応円和尚代に現在地（里内）に寺籍を移し造営された。



耕雲院　本堂

開山履歴

開山聖天義賢和尚は、源家室町将軍義詮公の庶子にして、貞治五年（一三六六年）二月十五日誕生、幼名を義賢と申された。宝鏡寺開山鶏岳永金禅師について得度、智徳兼備、徳望厚く懇請されて当院の開祖となる。後に師席を継がれ宝鏡寺二世となられ、次々と諸堂を造営され七堂伽藍の巨刹とした。仍って宝鏡寺二世中興と尊称されるに至った。寛正三年（一四六二年）十月二十七日世寿九十六才を以て示寂。

甲斐国志には、開山晦翁宗朔大和尚とあるが、開山は聖天義賢禅師であって、晦翁宗朔和尚は当院の二世に列せられている。このことは本寺宝鏡寺の由緒にも明記されている。

結構規模

本堂、木造入母屋トタン葺8×8K。

庫裡、木造入母屋トタン葺7×12K。

玄関、木造トタン葺3.5×3.5K。

本堂は大正初年カヤ葺屋根をトタン葺に改修、更に昭和四十一年八月起工、昭和四十二年四月八日落慶の現在の本堂及び玄関を再建。

庫裡は昭和三十年十一月起工、昭和三十一年三月二十一日落慶の大改築をなし現在に至っている。（本堂、庫裡共に二十世智慮代）

現在本堂の須弥壇及び前机は、明和六年（一七七一年）の建立。本尊前大間正面欄間の竜と獅子三枚一組の彫刻は、寛政元年（一七八九年）のものでその透し彫りは立派なものである。作者不詳。

歴代住職

開山	聖天義賢	寛正三年十月二十七日示寂　世寿九十六才	
二世	晦翁宗朔	宝鏡寺二世 天文九年八月十五日示寂 当院中興　宝鏡寺七世　泉福院開山	
三世	洲岩宣揚	元禄十一年十一月十一日示寂 宝鏡寺十三世　光彩院開山	
四世	地外良天	正徳五年三月二十六日示寂	
五世	融刹応円	宝暦三年十一月二十五日示寂　秋元但馬守家臣 当院中興　宝鏡寺十五世　広教寺十二世	
六世	大嶺智鏡	天明三年十月三日示寂 長泉院二世　広教寺十三世	
七世	洞竜岳仙	天明五年十一月二十九日示寂 宝鏡寺十六世　広徳院二世　長泉院四世	
八世	鳳泌円岳	安永八年八月二十一日示寂	
九世	玉巌天山	倉見宝養寺へ遷住	
十世	心月光潭	文化二年六月四日示寂 宝養寺より転住　宝鏡寺二十世	
十一世	温山光潤		
十二世	智照天睿	慶長五年八月十五日示寂 泉福院七世	
十三世	直指光伝		
十四世	祖戒天宗	宝鏡寺二十五世	
十五世	泰禅獠天		
十六世	末山禅之	広教寺二十二世　宝鏡寺二十九世	
十七世	黙山耕雲	昭和四年一月七日示寂　世寿七十三才　俗姓吉永 正福院より入院　慈観寺　進登　更に愛知県大鷲院へ栄進	
十八世	瑞雲偉雲	昭和二十四年七月示寂　俗姓鬼頭 昭和七年慈観寺へ遷住	

十九世　黙照智雲　昭和三十年一月二十九日示寂　世寿七十三才　俗姓河口　大正元年広禅院住職　大正八年正福院　昭和二年浅間寺住職を経て昭和七年当山に入院

二十世　大通智慮　現住

末社

当院の摂末社として、境外里内に梁行二間桁行二間三尺の弥勒堂がある。当院二世晦翁宗朔和尚の起立であると伝承されている。なおこの境内に、子育延命地蔵が合祀されており、毎年四月十八日例祭が行われ一般の人々から親しまれ厚く信仰されている。

講社

観音講がある。当院六世大嶺智鏡和尚代に結社され、宝暦九年（一七五九年）四月八日「百番観世音菩薩碑」を建立し、百体観音像を本堂内に安置された。観音像は中央に聖観音（像長24㎝）を祀り、その両側下段にそれぞれの観音立像（18㎝）及び坐像（11㎝）が祀られ毎月八日に講が開かれている。

古器什器寺宝

開山禅師像、達磨大師像、護伽藍神像、本尊及び脇立像等。

古鏡（面径18㎝）、工師加藤光永の銘がある。

石仏

弥陀庚申、元禄十五年春建立

六地蔵尊、二基

耕雲院本尊
六道能化地蔵菩薩

境内万霊塔を中心に、地蔵尊、百番観音碑、馬頭観音等十数体合祀されている。

行事

三朝祈禱会、涅槃会、仏誕生会、成道会、春秋彼岸会、宇蘭盆会、開山忌等。

民間信仰行事

観音講　毎月八日、毎年五月八日例大祭、

子育延命地蔵祭、毎年四月十八日弥勒堂境内にて

稲荷講　毎年初午に講中十五世帯により盛大に行われる。その縁由は、当院旧寺跡の鎮守として、正一位稲荷大明神が祀られその小堂が今も旧寺跡にある。従って旧寺領に関係する

者により護持され、初午祭りには当院住職によって祈禱が捧げられ現在も続いている。

伝説行事

門入りの行事、当院開山義賢禅師が、当院を創立された折、所謂ワラジを脱がれ休まれた家として、屋号「マル」現在の藤江登氏並びに藤江健吾氏方がある。そうした縁由によって、開山禅師以来毎年正月二日に、「マル」一統の方が当院の門に入り、本尊様におまいりをし住職を請して帰る。住職はその日のうちにその家に赴き先祖回向を申す。この儀式が門入（かどいり）の行事として伝承され今もなお行われている。

百体観世音菩薩

夏狩（下）

臨済宗　石頭山長慶寺

大本山妙心寺直末

本尊由緒

薬師如来（坐像寄木造）像長32㎝　膝張り27㎝　面長10㎝　面巾7㎝　面深7㎝　台座14㎝　玉眼にして鎌倉時代の作と伝えられている。

由緒によると「昔西桂村下暮地に護満長者あり。薬師如来を安置し尊敬せしも、長者の家絶えて後は薬師堂のみ存せしに、富士の雪解水俄かに出て堂宇を押し流し本尊は当寺の池（御所泉）に止りそれを安置す」と記録されている。

合祀仏

脇侍　月光　日光両菩薩　立像寄木造像長46㎝、十二神将立像寄木造彩色　像長34㎝、

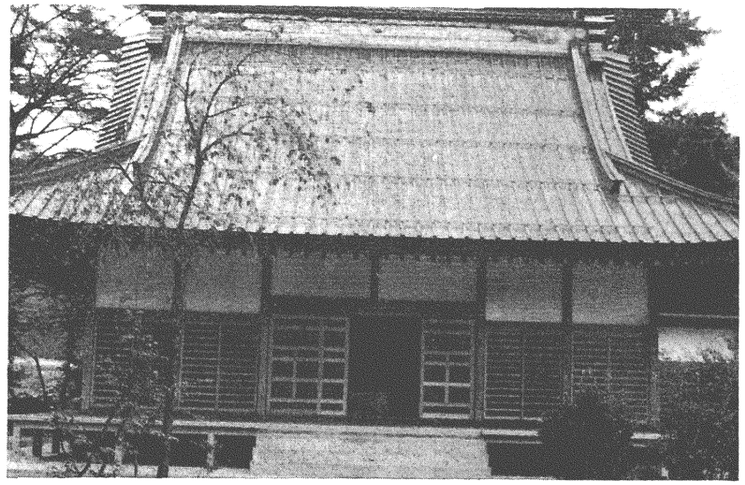
興起縁由

もと天台宗の比叡山南溪龍城阿闍梨の弟子大淵阿闍梨当地行脚す。その法徳に村民帰依し、寛正三乙午年五月一草庵を結

び長慶庵と号して開創し八十五才にて示寂す。時文明十八年十月五日。明治六年隣寺東漸寺を統合す。

開山履歴

開山五峰東原禅師は、元亀元年鎌倉建長寺より来り、天台宗を臨済宗に改宗し、堂宇を造営し庵を寺と改め開山となり四衆を化度し天正十九年七十三才にして遷化。



長慶寺　本堂

結構規模

〔本堂〕木造銅葺65×55K（昭和五十年再建）

〔庫裡〕木造茅葺6×9K（寛永十九年造営）

歴代住職

勧請開山五峰東原禅師

一世　綱禅智端　建長寺派を辞し妙心寺末となり中興す　明和七年九月四日示寂

二世　中天恵信　明和九年三月五日示寂

三世　享尊貞　寛政五年六月十二日示寂

四世　椿叟恵周　天保二年四月二十二日示寂

五世　蓉峰祖透　安政三年六月二十一日示寂

六世　棲接祖養　明治十一年三月七日示寂

七世　良住元鼎　明治十一年北都留郡大椿寺より転任、歿年不詳

八世　仁道義恵　大正九年十月十七日示寂

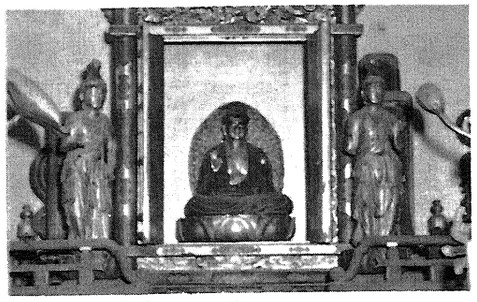
九世　義道恵詮　現住

古器什器宝物

寒梅　維明画　絹本111×34cm　江月和尚筆書一軸26.5×39.5cm

黄檗木庵書　紙本「松」67.5×28.5cm　隠元禅師書　紙本「桂子水流芳」32cm×132cm　白隠禅師真筆　絹本　大自在天満天神　南無観世音菩薩　秋葉山大権現　69.5×25cm　熾仁親王書　133×46cm　外二点。

石仏



長慶寺　本尊　薬師如来

六地蔵尊一基　舟形観音石仏二体

信仰行事

十月十一日　本尊薬師如来例祭

秘仏としての薬師如来は、霊験著しく一般の人々の信仰厚く、縁日には参詣人群をなしたものであった。現在は参詣する者も少なくなったが、例祭法要はなお行われている。